



避難訓練の意味はあるのか？

3学期の避難訓練は、予告なしで行います。学校時間中のどこかで、訓練放送を流します。

日本は世界でも地震が非常に多い国です。世界で起こるマグニチュード 6 以上の地震の約 20%が日本周辺で発生しているといわれています。

一昨年6月18日、大阪北部地震を被災者として体験しました。大きな揺れを体験した後の数日、数週間は次の余震に備えて緊張していた日々が続き、いざ起こったらどうしようかと日々考えた人も多かったのではないかと思います。しかし、その緊張感は日常生活から徐々に薄れています。今現在も、地震の影響で弱くなったプール壁を撤去し再建している工事が始まりましたが…。

『天災は忘れた頃にやってくる』

1995年1月17日早朝に起こった阪神淡路大震災。2011年3月11日に起こった東日本大震災。甚大なる被害が出た大地震です。そして、今後30年以内の発生確率が80%ともいわれている南海トラフ地震。最悪の被害ケースは東日本大震災の10倍以上とも言われています。

いざという時にどうするのか、ということを考えるきっかけになるのが避難訓練です。

本州最南端にある和歌山県串本町の串本学校は海に面した学校です。いざという時にビックリしていたり、準備を怠ると5分もしないうちに津波に襲われる可能性がある地域です。避難訓練も全力で走ります。高台に逃げなければ津波が来ます。命を守るための訓練です。

三島中学校でも、学期に1度、避難訓練を実施しています。いざという時を想定する訓練だということを頭に入れておいてください。雰囲気を作るのは一人ひとりの気持ちです。天災は忘れた頃にやってきます。

学校での地震対応について



① 自分の身を守る

授業中・休み時間・登下校中、大きな揺れを感じたら、机の下に入るなどの頭を守る行動をとる。倒れてくるもの（本棚や靴箱など）、落ちてくるもの（ガラスや瓦など）から離れる。（大きな揺れが1～2分続くときもある。）

② 指示を聴く。避難する。

安全な場所に避難します。学校では原則運動場です。学校では多くの人数が移動します。指示を聴けるようにしましょう。（停電で放送が使えないことも想定されます。）登下校中は、距離にもよりますが、学校が無難だと思います。



③ 移動は落ち着いて。

学校内では、渡り廊下の使用や、渡り廊下の下を通ることは危険が予想されます。できるだけ使用しないようにしましょう。落ち着いて階段を下りてガラスなどの落下物に注意して運動場に出ましょう。

④ クラスで整列、静かに待機。

運動場で最優先されるのが点呼による安全確認です。全員の命と安全を守らないといけません。誰がいないのかを瞬時に把握することで、怪我をして逃げ遅れている生徒を助けることが出来ます。運動場に出たら、すぐにクラスで整列し静かに座って待機してください。余震の発生や、火災の発生も考えられます。ここでの安全確認がお互いの命を守るということにつながります。静かに待機しましょう。

地震の発生は、予測が付きません。日々の備え・心の準備が大切になってきます。しかし、その緊張感をずっと保つことは難しいということは、私自身も感じています。だからこそ、学期に1度の避難訓練で、その気持ちやいざという時に動ける準備を本気でしていきたいと思っています。3学期の避難訓練は、「命を守る」という意識を高く持って実りある訓練にしたいですね。

裏面は参考までに。「茨木市防災ハンドブック いざ！の行動」